



駅のホーム

電車が来て 走り出す学生達

恋に大はしゃぎの 女の子

打ち合わせ帰りの サラリーマン

お出掛けで幸せそうな 家族連れ・・・

目紛しい流れの中で

私だけが立ち止まっているんだ

落ち着かなくて 音で会話遮って

唇 頬 耳元 首筋・・・

自分の存在を確認するように

頻りに触れている \_\_\_\_\_

時間通りにバスは来たのに  
乗らなかった

見上げた空には  
嫌いな満月が 眩しく輝いて

耳元で

泣き言のリフレイン

愛用のコードは  
今にも千切れそうだ・・

全部が用意されたみたいに  
あたしにお似合いの夜

錆びれたバスが1台

ゆっくりと近付いてくる

「ははっ・・。あのバスだ。」

乾いた笑い ひとり呟いて

先の見えないドアに乗り込んだ

どこからか

引き止める

声が聞こえた気がした

でも私は

このまま漂っていたいの

悲しみが消えるまで

奥の暗闇に

吸い込まれる様に座り込んで

ただ外を眺めてる

その内

過ぎ行く景色にも疲れて

目を閉じて・・・

運転手さん、このバスは何処に向かっているのかな

・・・

そんなの、何処でもいっか

此処より静かで 淡い場所なら

此処より私の存在を 濃くしてくれるなら

その終着点は

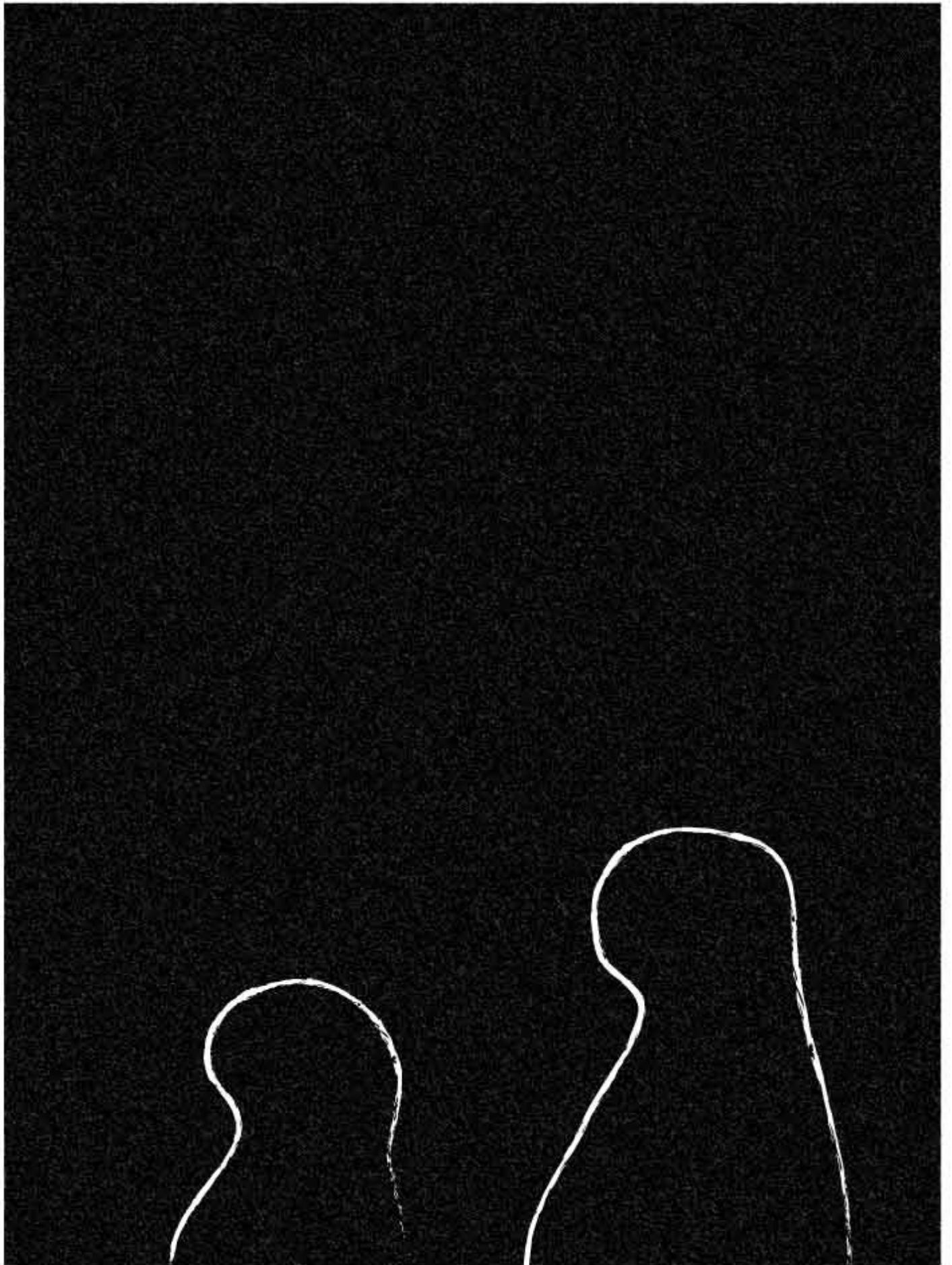
絶望も悲しみも全て飲み込まれる

無、という場所…

そこは最初から闇だけが存在していた

決して晴れることのない闇だけが存在していた

独りの人間を除いて —————



あなたはいつからいるの？





ずっと前から。

気付いたら、着いてたんだ。



君はどうしてここに来た？



バスが、来たから。。



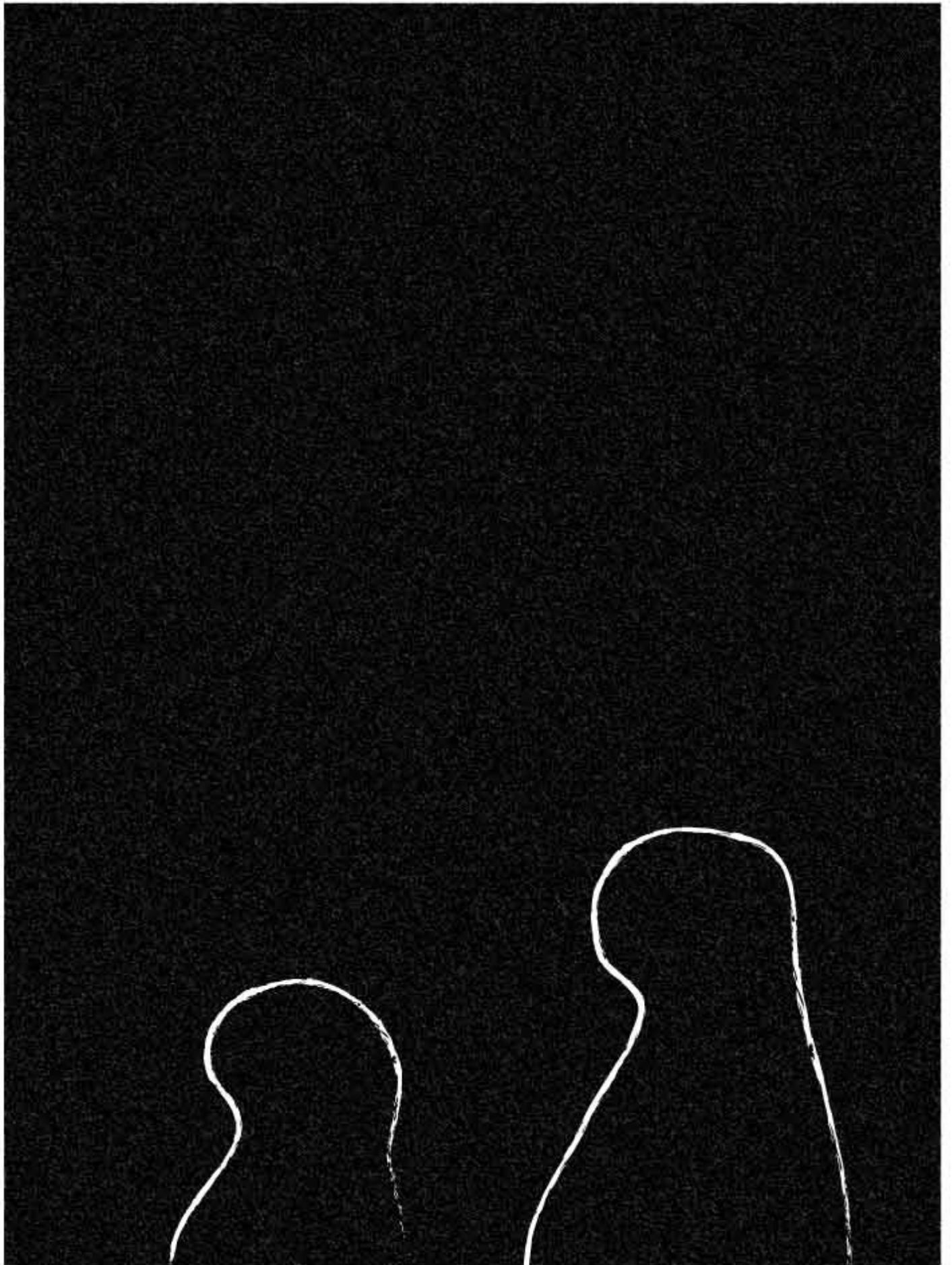
景色に、疲れたの。

顔もぐちゃぐちゃになったし  
存在を証明しようとしたら  
透明だって気付いて。。



そうか。





今日は良い色だ。



え?





闇の色。

日によって違うんだ。



私には、

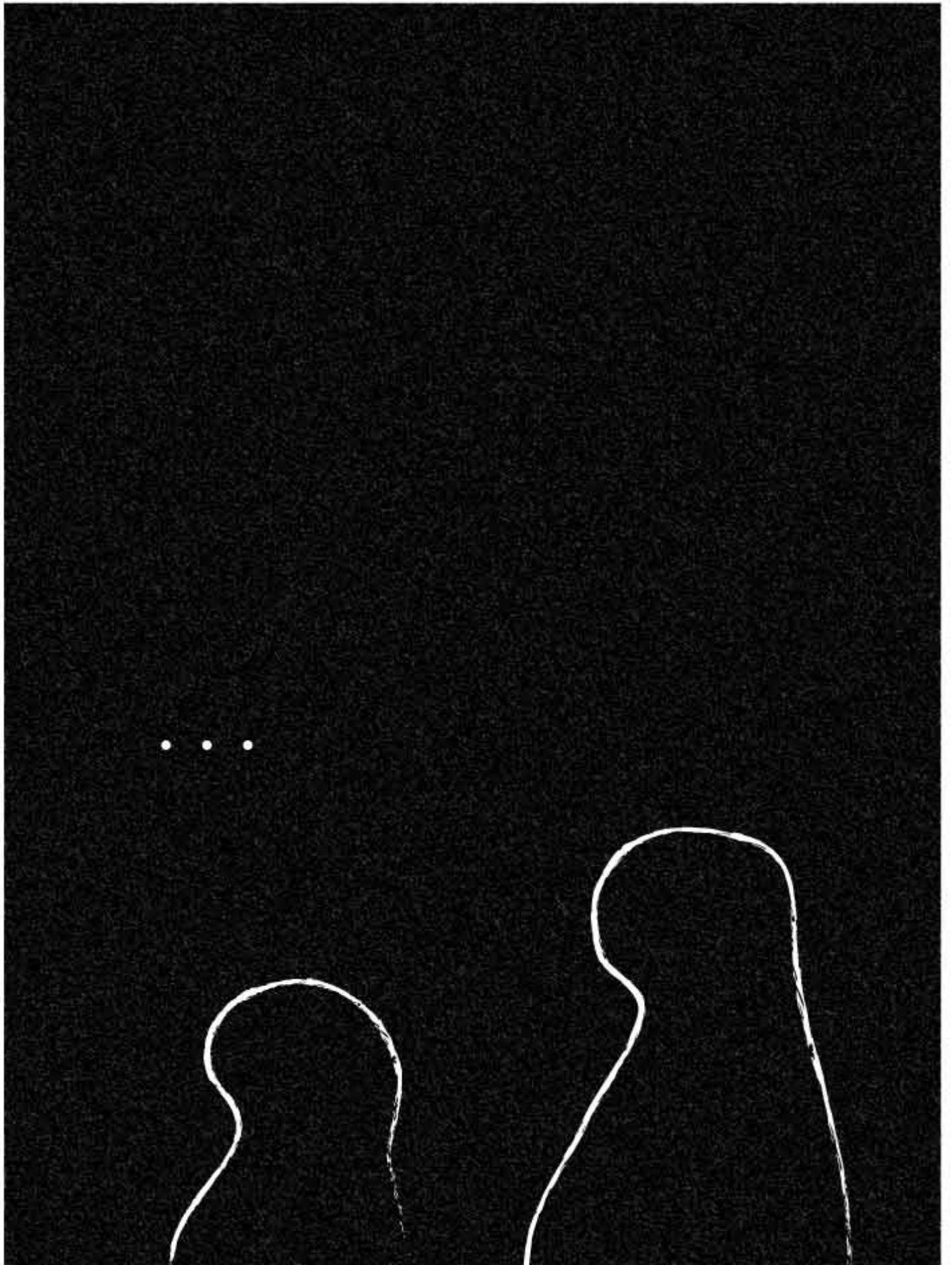
あなたの顔や形さえも

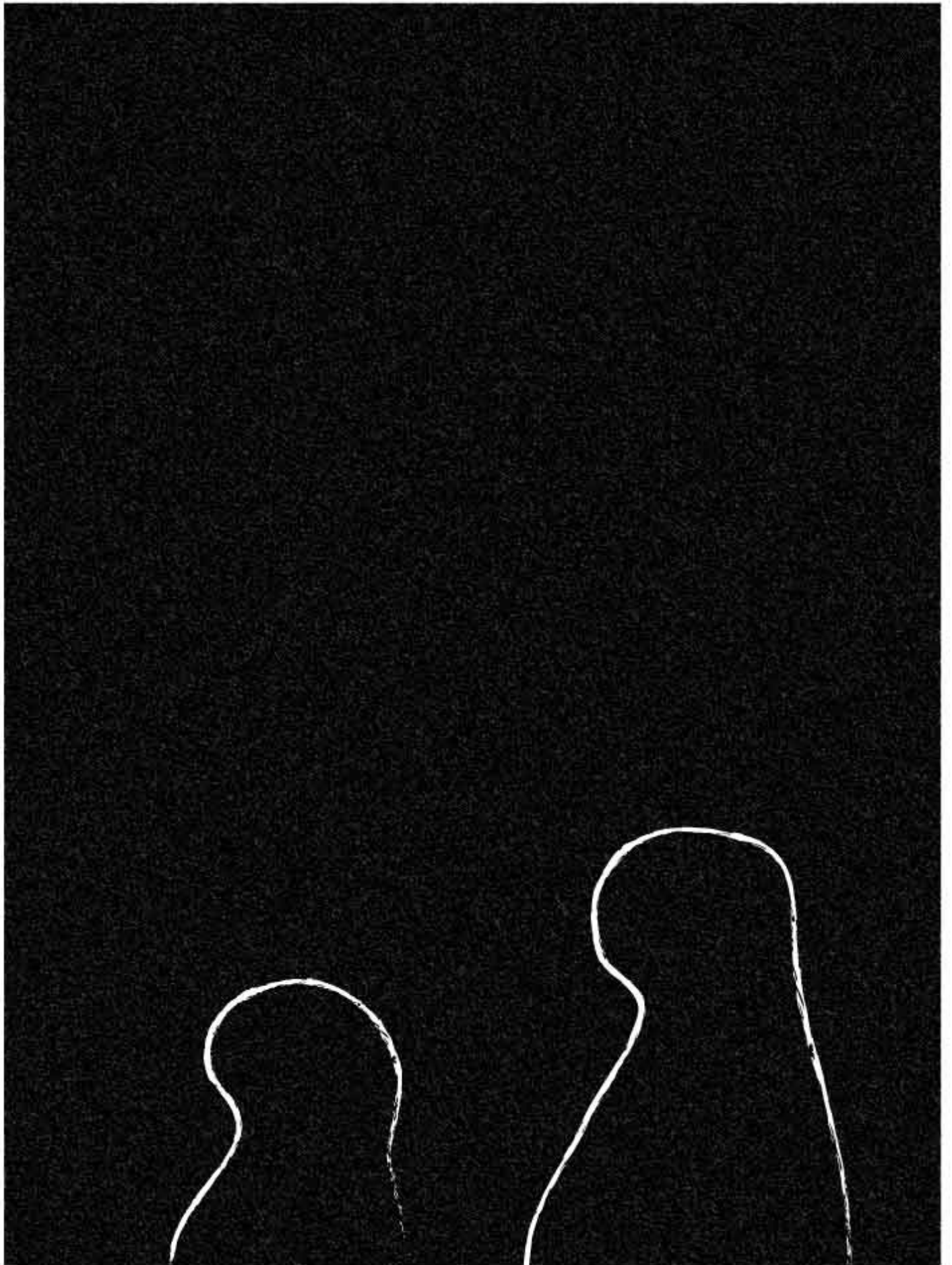
何も見えてない。



そんなことは重要じゃないさ。







ここにいてもいい？



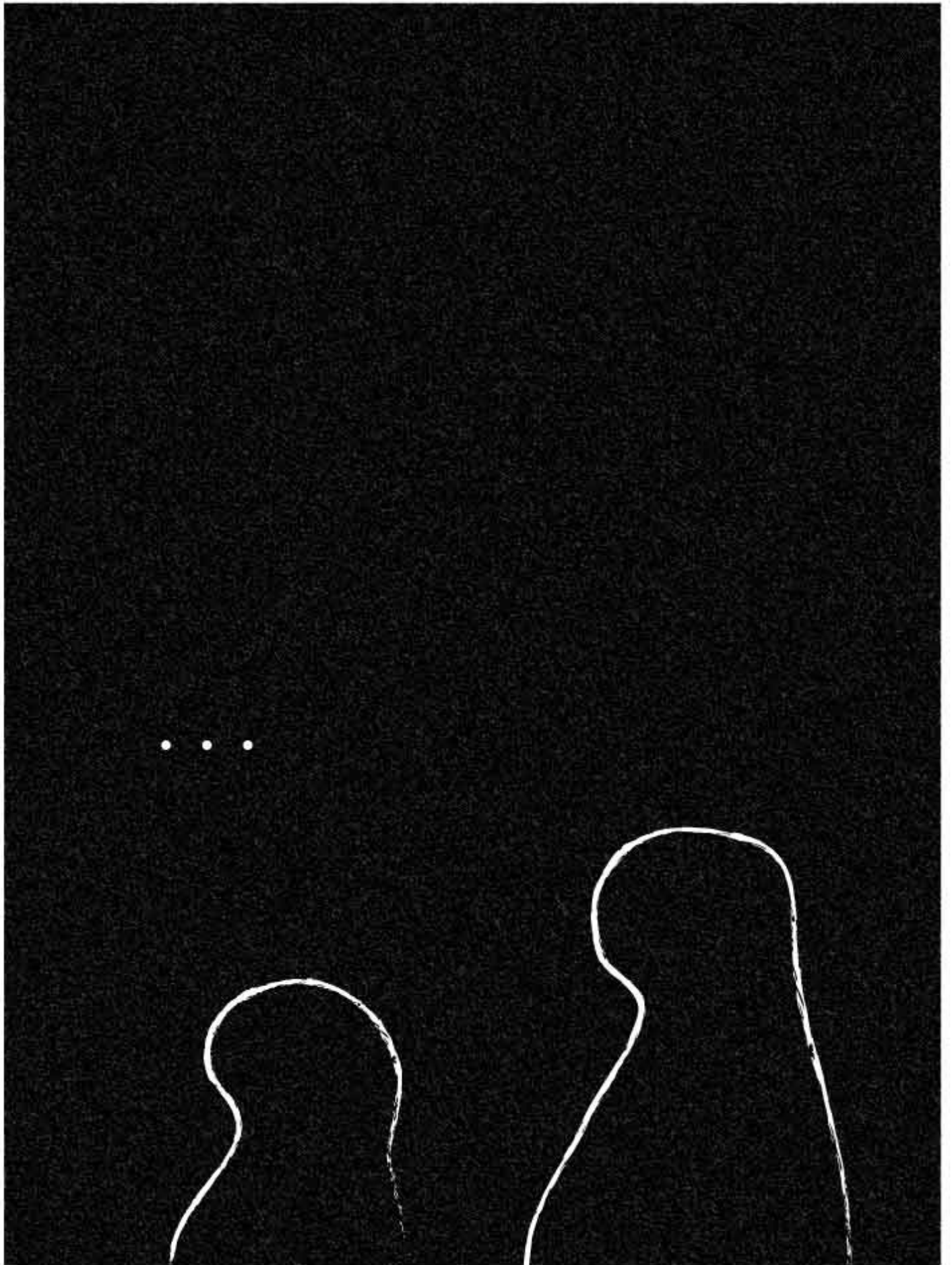
それは私が決めることではない。



君がそうしたいなら  
そうすればいい。

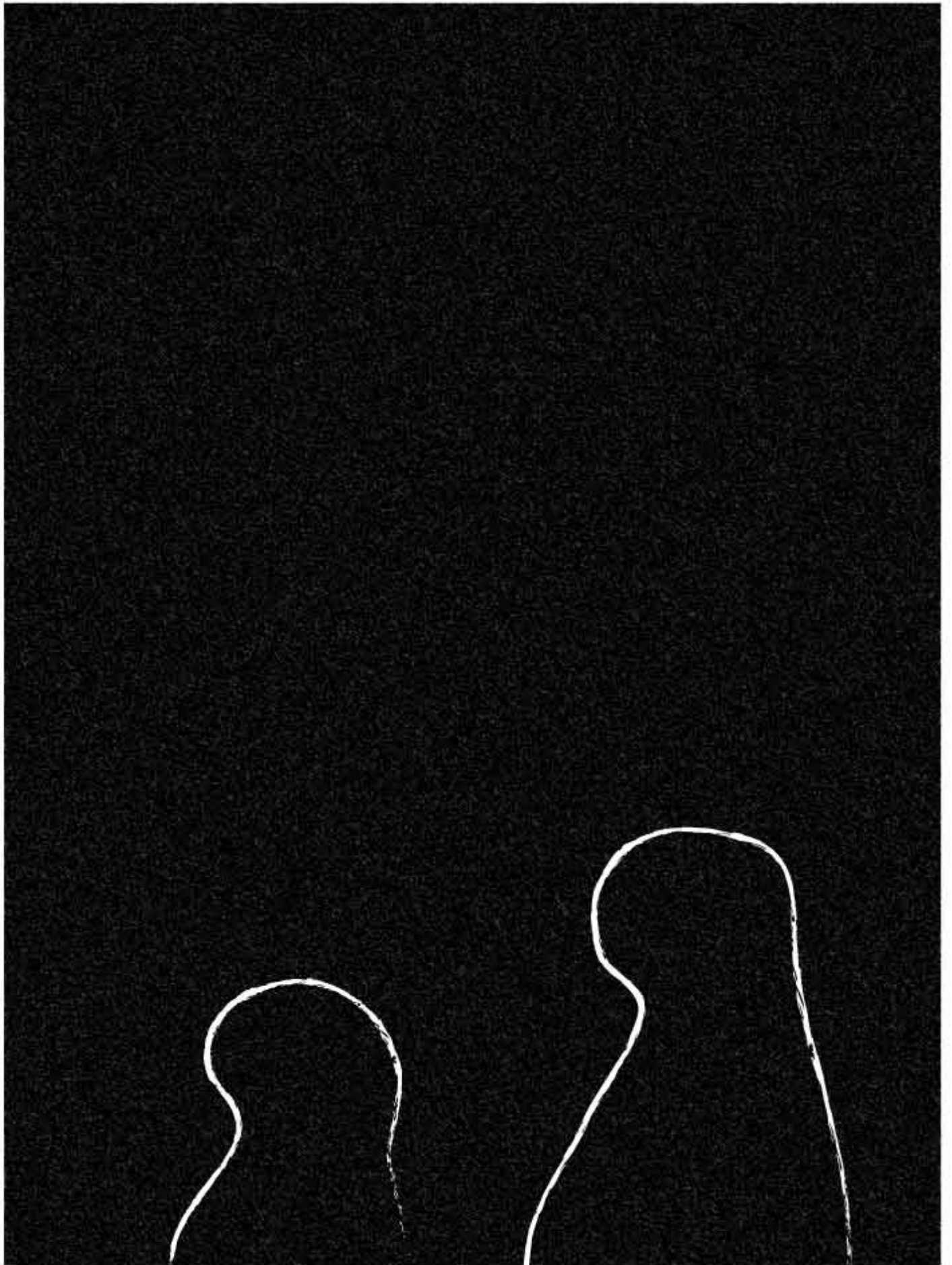






ありがとう。





綺麗だね。今日の色。



ああ。綺麗だ。



おしまい

## ■この作品について■

このお話は

私のブログに載せた詩

『気付いてしまった夜に』を元に

そちらに寄せられた

尊敬する作家さんである、[blackout様](#)のお言葉

からイメージを受けて、完成したものです。

(5ページ目、最後の1行『独りの〜』は除く)

このような機会を与えて下さった事、  
本当に感謝しています。ありがとうございます！

尚、詩集やブログの中にも

元になった詩がいくつか入っています。

そちらも合わせて見ていただけると嬉しいです。

その終着点は

絶望も悲しみも全て飲み込まれる

無、という場所...

そこは最初から闇だけが存在していた

決して晴れることのない闇だけが存在していた

---

### ◆元になった詩◆

『失った顔』

<http://p.booklog.jp/book/55156>

パブー「25時の二日月～26歳女の言葉遊び」より

『朝が来るから』

<http://marry1111.blog.fc2.com/blog-entry-103.html>

『存在証明』

<http://marry1111.blog.fc2.com/blog-entry-123.html>

『気付いてしまった夜に-1-、-2-、-3-』

<http://marry1111.blog.fc2.com/blog-entry-155.html>

<http://marry1111.blog.fc2.com/blog-entry-156.html>

<http://marry1111.blog.fc2.com/blog-entry-160.html>

ブログ「25時の二日月～26歳女の言葉遊び」より